

他の事業者からの要望

- ✓ 技術的に可能であること
- ✓ 二種指定事業者に過度に経済的負担を与えないこと
- ✓ 需要の立上げ期にあるサービスに係る機能でないこと
- ✓ 必要性、重要性の高いサービスに係る機能であること

注視すべき機能

一定期間、事業者間協議の状況を注視

合意形成が困難と判断

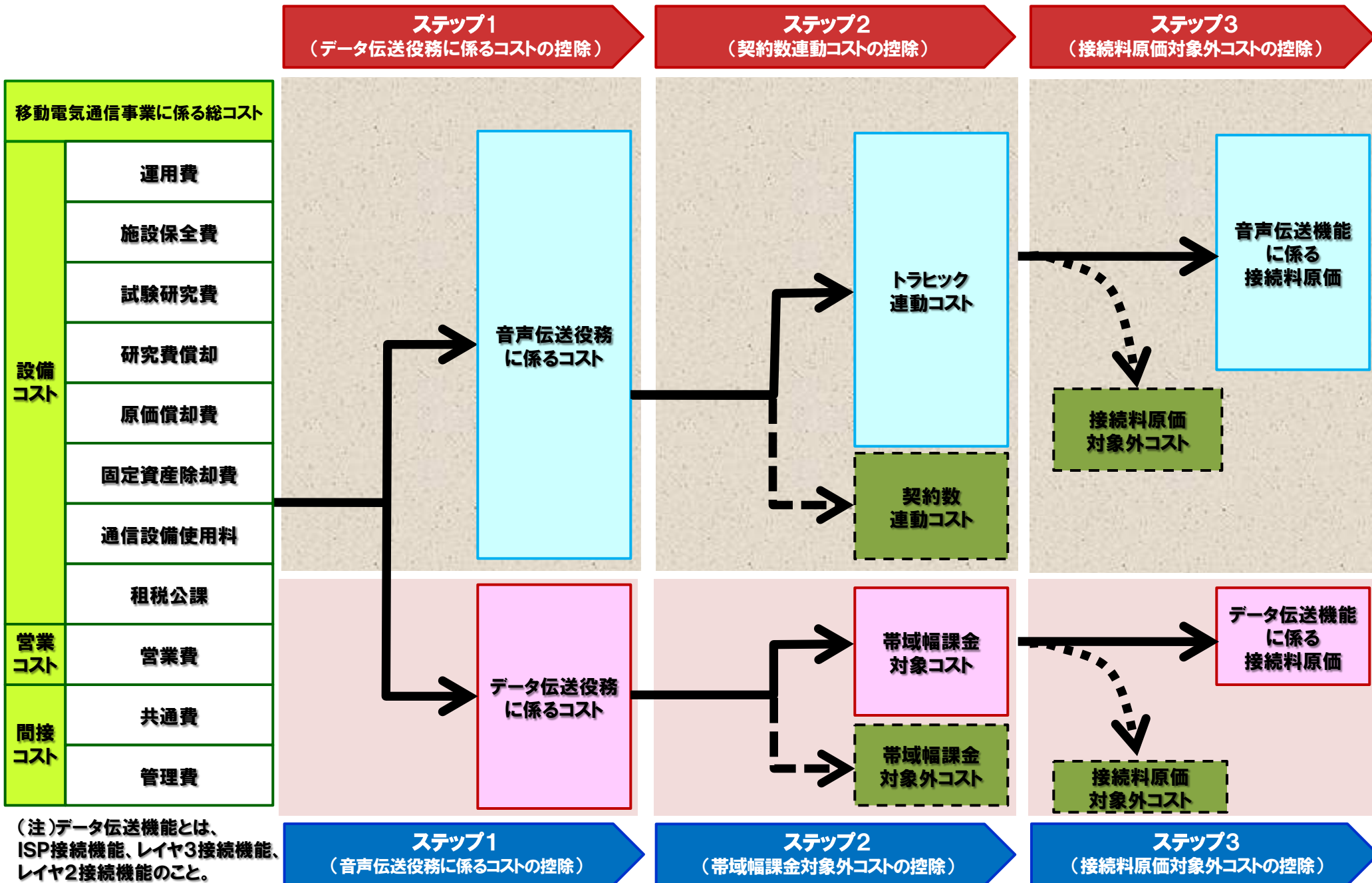
アンバンドルに係る最終判断

アンバンドルすることが望ましい機能

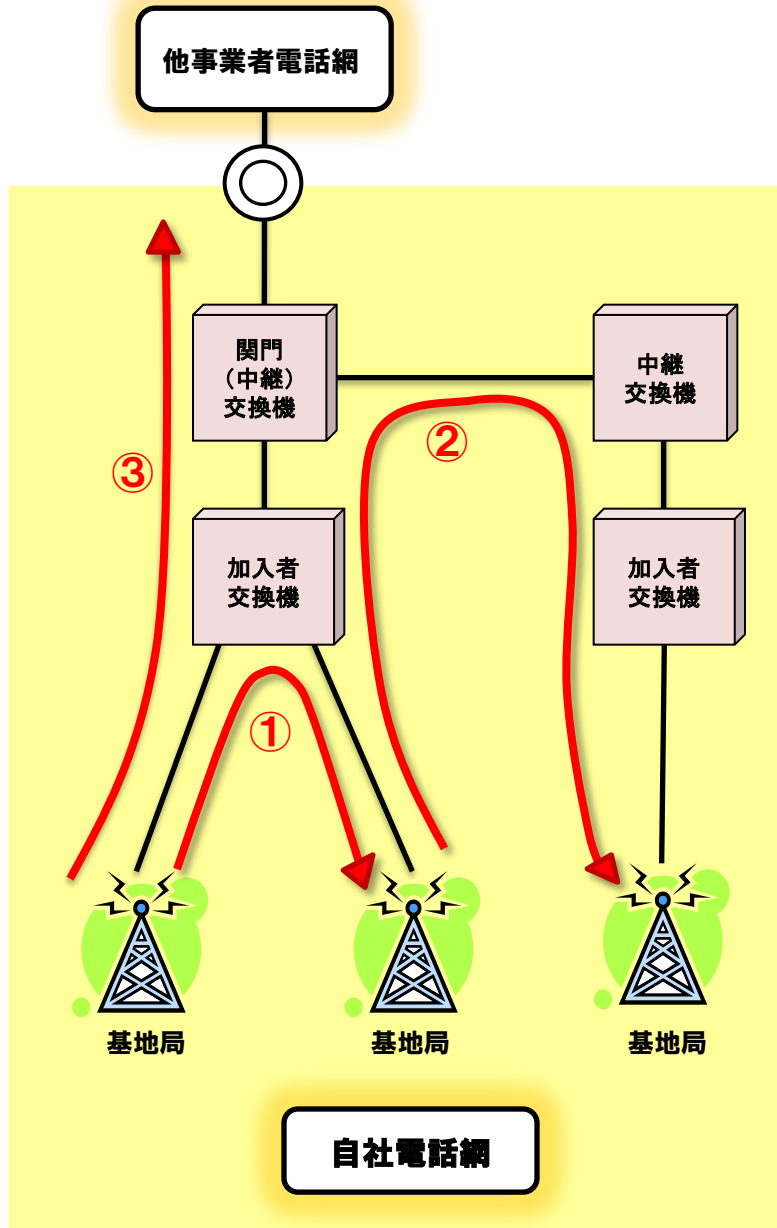
事前調査申込み等

システム開発
約款変更 等

3ステップ・プロセスのフローチャート



音声伝送機能の総需要の算定に係るモデル・ケース



● 仮想事例

- ・基地局のコスト : 240万円
- ・加入者交換機のコスト : 120万円
- ・関門(中継)交換機のコスト : 90万円

- 総コスト : 450万円

- ・①、②、③の各通話時間 : 10万分

● 設備の利用を考慮した総通話時間

	基地局	加入者交換機	関門(中継)交換機
①	20万分 (10万分×2局)	10万分 (10万分×1機)	0分 (10万分×0機)
②	20万分 (10万分×2局)	20万分 (10万分×2機)	20万分 (10万分×2機)
③	10万分 (10万分×1局)	10万分 (10万分×1機)	10万分 (10万分×1機)
合計	50万分	40万分	30万分

・接続料 = $(240万円 \div 50万分) + (120万円 \div 40万分) + (90万円 \div 30万分)$

$$= \underbrace{4.8円/分}_{\text{基地局}} + \underbrace{3.0円/分}_{\text{加入者交換機}} + \underbrace{3.0円/分}_{\text{関門(中継)交換機}}$$

$$= 10.8円/分 \quad (\text{利潤は0と仮定})$$